

「揺られて」

—初稿—

2025/1/21
雨森 れに

〈人物表〉

田島 綾香

(35)

社会人。幹久と同棲している

野村 幹久

(40)

綾香の恋人

田島 美穂

(64)

綾香の母親

田島 千香

(30)

綾香の妹

〈ログライン〉

毒親から離れられない綾香が、妊娠をきっかけに子供の育て方について考え、母親と距離を置く。

〈テーマ触媒〉

母親

〈テーママップック〉

母親の在り方／毒親、搾取子と愛玩子

1. アパート・寝室(朝)

薄暗い室内でアラームが鳴る。

寝ていた田島綾香(35)が、野村幹久(40)を揺する。

綾香 「ねえ、アラーム鳴ってる」

幹久 「うーん」

幹久、眠そうな様子でスマホを触る。

だが、音が止まらない。

綾香が苛立って照明をつける。

綾香 「ちよっと何やってんの」

幹久 「俺じゃないって。綾香のじゃん」

幹久がスマホを差し出す。

着信中で表示は「お母さん」。

綾香 「お母さんだ」

幹久 「なんかあったのかも。早く出なよ」

綾香、頷いて、電話に出る。

綾香 「もしもし?」

田島美穂(64)が悪びれの無い声で、

美穂の声 「ごめん、寝てた?」

綾香 「寝てたけど……どうしたの?」

美穂の声 「ちよっと相談したいことがあって」

綾香 「急がないなら今日帰りにそっち寄るよ」

美穂の声 「ほんと? じゃあお願い」

綾香 「うん。あとでね」

綾香、通話を切って溜め息をつく。

幹久 「お母さん、なんだって?」

綾香 「相談だって。帰りに実家に行ってくる」

幹久 「そっか。なんていうか、大事じゃないといいけどなあ」

綾香 「どうせまたお金の話か、妹の話だよ。あー行きたくない」

幹久 「なら行かなくてもいいんじゃないの」

綾香は幹久の目を見つめる。

綾香 「……ほら、遅れちゃうよ」

幹久 「(スマホで時間を確認して) そうだね。じゃ、お母さん

の話がわかったら教えてよ」

幹久が寝室から出ていく。
綾香は再度横になり、基礎体温を測り始める。
体温計が鳴る。
しかし、表示を見て再度測り直す。

2. 田島家・外観(夜)

一戸建ての家。一階、二階と電気が点いている。
綾香、二階を怪訝そうに見る。

3. 田島家・一階・リビング(夜)

お茶を飲む綾香と美穂。

綾香の手元には干し梅のパッケージが置いてある。

美穂、干し梅をちらりと見て、

美穂 「相談なんだけどね」

二階から大きい物音。そして女の奇声が聞こえる。

綾香が視線を天井へ向ける。

美穂も困ったように天井を見る。

美穂 「千香が帰ってきてるの」

綾香 「え？ 結婚するって言ってたじゃん」

美穂 「そうなんだけど。ブライダルチェックで引っかかっちゃ
ってねえ」

綾香 「あー。今、多いうって言うもんね。でも治療とか、できる
んじゃないの?」

美穂 「やっても難しいみたい。タマゴが定着しないとかで」

綾香 「夫婦ふたりでってダメなの?」

美穂 「それがね、先方の親御さんが大反対で」

二階から物を投げる音。

綾香 「(再度天井を見て)で、このざまかあ」

美穂 「だからお姉ちゃん何とかしてあげてよ」

綾香 「何とかってなに——うっ」

綾香、口元を押さえる。

美穂 「やだ、ちょっと。どうしたの」

綾香 「吐きそう」

綾香、トイレへ走る。

4. 田島家・トイレ前(夜)

綾香のえずく声がする。

美穂、扉の前で不安げな表情。

流す音が聞こえ、綾香が出てくる。

綾香 「ごめん。こんなに気持ち悪いの初めてで」

美穂が怒りの表情に変わる。

美穂 「あなた、もしかして妊娠してるんじゃないの?」

綾香 「えっ」

綾香、おそろおそろ手をお腹に当てる。

美穂 「どんな人なの? ああもう、タイミングが悪すぎるでし

よ」

綾香 「タイミング? 何言ってるの?」

美穂 「千香ができないで帰ってきてるのに、あなたがデキ婚なんてダメでしょ。お母さんどうしたらいいの?」

二階から奇声がする。

美穂 「(悲しそうに)千香になんて言えばいいの?」

綾香、お腹に当てている手に力を込める。

綾香 「千香には黙ってればいいじゃん。こっちの家には迷惑かけないし」

美穂、はっとした顔。

美穂 「違う、迷惑とかじゃなくて」

綾香 「いいから! もう私帰る!」

綾香、家を飛び出す。

5. アパート・リビング(夜)

綾香、寝室のドアをそっと開ける。

幹久がいびきを立てている。

寝室を閉め、ソファアに座る。

テーブルには妊娠検査薬。陽性の印が出ている。

考え込むように検査薬を見つめる。

× × ×

アラーム音。

綾香がソファアで飛び起きる。

目の前には幹久。心配そうな顔をしている。
検査薬が置きっぱなしなことに気付き、隠そうとする。

綾香 「これは違うの！」

幹久 「大丈夫。大丈夫だから、そのこと教えて」

綾香 「違うんだってば。ダメなの」

綾香は説明しようとせず、体を丸める。

幹久が綾香の背中を撫でる。

幹久 「じゃあお母さんの話からしようよ。相談ってなんだった？」

綾香、小声で、

綾香 「妹が、子供ができない体だって」

幹久は綾香が握りしめている検査薬を見る。

幹久 「それは……つらいね」

綾香 「んで、結婚ダメになったから、家にいるんだって——私に、どうにかしろって言ってきた」

幹久の手が止まる。

幹久 「それってどういう意味？」

綾香 「知らない。でも、私がデキ婚したら妹に説明できないって怒られた」

幹久 「(憤慨して) え？ 怒るのは違うでしょ。今だから言うけど、綾香のお母さん、ちょっとおかしいよ」

綾香、顔をあげる。

綾香 「だから、育てられる気がしない」

幹久 「綾香がお母さんみたいになるってこと？」

綾香 「きつとお母さんみたいになるよ。普通の家庭がわからないんだもん」

幹久 「普通がわからないなら、一緒に理想を目指せばいいじゃん」

幹久が綾香の手を握る。

幹久 「俺もいるんだよ」

綾香 「でも」

幹久 「そもそも、こんなに悩んでるのに、同じになるわけないでしょ」

幹久が綾香を抱きしめる。
綾香も応えるように腕を回す。

綾香 「私、お母さんたちと離れたい。そしたら——わっ」

緊急地震速報が鳴り響く。
部屋が大きく揺れ始める。

幹久 「綾香！ テーブルの下行って！」

幹久は綾香をテーブルの下に押し込む。

幹久自身は頭だけ入れ、テーブルの脚を支える。

戸棚が倒れ、食器が割れる。

綾香はテーブルの下で恐怖に耐える。

揺れが徐々に収まっていく。

幹久 「綾香、ケガは？」

綾香 「してない。けど、まだ心臓ばくばくしてる」

幹久 「よかった。また来るかもしれないから、防災リュック持
ってくるよ」

幹久が寝室へ向かう。

綾香のスマホが鳴る。美穂からの着信。

綾香 「もしもし」

美穂の声 「（遮るように）大丈夫だった!？」

綾香 「うん」

美穂の声 「千香が怪我しちゃって大変なの！」

綾香、一瞬固まるが、

綾香 「（鼻で笑って）大丈夫。私は迷惑かけないよ」

美穂の声 「そういうことじゃなくて！」

綾香、スマホの電源を切る。

幹久 「お母さん？」

綾香 「うん。でも切っちゃった。充電ももったいないし」

幹久 「大丈夫？」

綾香 「まだ心臓ばくばくしてる」

綾香、憑き物が落ちたように笑う。

おわり